

巻頭言

一体感のある東海地区の学協会 — 中化連とは —

日本油化学会 東海支部 浅野 浩志



本号では、「東海支部の企業から発信する油化学」と題し、特集が企画されています。編集委員の静岡大学間瀬先生からは、学術的な知見をもとに優れた商品開発を実践している東海地区の企業のアピールを兼ねて企画されたと伺っています。さて、東海地区は、製造業の企業が多く、言わずと知れた日本のものづくりの中心です。自動車、航空機産業、セラミック等が有名ですが、油化学に関連する化学系の研究所や工場の拠点も多く存在します。また、その化学系の各学会では、学会内での縦の繋がりだけでなく、学会間の横の繋がりもあることが、この東海地区の特徴であり伝統です。そして、その象徴が「中部化学関係学協会支部連合協議会」であり、ここでは、この略して「中化連」を紹介したいと思います。

聞いただけでは、中華料理に関係した何かの団体？と勘違いしそうな「中化連」は、昭和45年度より発足し、現在、日本化学会をはじめとする化学系の14の学協会から構成されています。そして、さらに、その5年を遡り昭和39年1月に産声を上げた「東海化学工業会」の創立が、中化連の発足に大きな影響を与えたことが、昭和46年と47年に油化学の東海支部長をされた岐阜大学の平林芳夫先生の「東海化学工業会」会報の記述から読み取ることができます。「東海化学工業会」は、近畿化学工業会をモデルに東海地区の大学、研究所、会社の研究者が中心となって、既に当時設立されていた「中部科学技術センター」を事務の拠点とし創立されました。昭和40年からは、総会や講演会、講習会などが活発に行われ、更には、当時すでに設立されていた化学系学協会の各支部とも懇談会や連絡会を開催して緊密な連携・協力を「東海化学工業会」は担っていたようです。しかし、

当時の各支部の事務業務は、支部に関係する学科や講座の若い教官や職員の方々が献身的に処理してくださっていたのですが、その奉仕も限界に達していたようです。そして、ここに至り、「東海化学工業会」がリードして各学会の要望をまとめ、「合同事務局」が昭和44年に開設されて各学協会の事務処理を担うようになりました。そして、この「合同事務局」の設立により、各学協会の協力体制を整えて、翌年、現在も続いています「中化連」が産声を上げたのです。

東海支部は「油化学協会東海支部」として昭和26年11月に発足しましたが、現在も「合同事務局」の皆さんにご助力いただきながら、「中化連」を通じて東海地区の各学協会と横の繋がりを大切にしております。「合同事務局」の設立では、諸先輩の先生方から「事務合同化で大きな学協会支部は小さな学協会支部を応援せよ。」「運営に当たる者は公平で特定な学協会に偏るな。」「学協会支部間の偏見を取り除け。」というお気持ちが示されていました。この指針のもと、毎年秋11月の第一土曜日と日曜日に行われる秋季大会では、学生さんの発表や各学協会の特別討論会を中心に一体感のある研究発表会が行われています。また、東海支部では、若手研究者の育成と活性化のため、油化学に関連する学生発表を募集して「オレオ奨励賞」を授与する企画を2016年より始めています。今後も、東海支部では、この「中化連」を通じ、油化学に参画していただける産官学の先生方とともに、油化学に関連する研究やものづくりに貢献していきたいと考えております。

(日本メナード化粧品株式会社)